長い付き合い、それも私の駆け出しの時代からのずっとの付き合いの中での、ターミナルの場面は、私は治療のことは傍観者であったが、病室で家族を含めた心のやりとりができて、何とも言えない気持ちだった。昏睡の中でも、本が間に合ったことはうれしかった。

河合さんの柩におさめられた1冊の私の本。なじみの中での看取り、病院の中でもこんな場面があってもいいのではと思った。

あれから何度も、私は腰椎穿刺をする。そのたびに、私は河合さんのことを思い出し、そして患者さんとのしみじみのターミナルのことを思っている。

第4回名古屋研修会報告

去る10月31日土曜日、第4回名古屋研修会が社会保険中京病院を会場にして開催されました。今回は東海地区の会員の手で企画運営をするという初めての試みでしたので、その運営にあたった者として感想をまじえ報告したいと思います。

東海地区会員といってもまだ数人しかいないため活動できる者は総動員する必要があり、実行委員の名古屋第一赤十字病院の大平さん、日赤愛知女子短大の林さんのほか、公立陶生病院の青山さんにも協力をお願いし、計画から実行までを進めました。事前の準備段階では、日曜日にランチをとりながら、あるいは平日の夜名古屋の繁華街「栄」に集まって相談の会を持ちました。三人寄れば文殊の知恵といいますが、普段ひとりで仕事をしている私にとっては人の意見やアイディアを聞くというだけでとても刺激的なことでしたし、集まればパワーが出るものだとも感じました。

さて、当日は秋晴れのよい日になり、各地から22名（うち非会員6名）の参加がありました。当院が会場なので、準備を整え皆さんを待つつもりだったのですが、結局私の悪い癖で間際までコピーをしていたり、あわてて院内の他部署へ借り物をしに走ったりしているうちに時間になってしまいました。大平さん、林さん、青山さんによって会場設営は着々と進んでおり、定刻通り当院土井昭成（てるしげ）院長の挨拶が始まりました。司会は大平さんで、終始なごやかな雰囲気だったと思います。

午前中は高山赤十字病院の木下久美子氏による講義「必要とされる情報（資料）を提供するために－担当者の役割と必要な知識－」で、図書室業務の基本的な情報提供サービスについての実例を挙げての丁寧な説明は、経験年数にかかわらずたいへん参考になる内容でした。

午後はまずＣＤ－ＲＯＭの講義と実習で、当院のNEC PC-9801と、デモをお願いした丸善㈱の三菱MAXYを並べスタンバイOK。MEDLINEの2種類のシステムを比較したり、医中誌CDの検索を実際に各自が体験する機会を持つのが目的でした。

そのあとは、お茶を飲みながらの質疑応答・ディスカッションで、いつのまにか閉会の時間。あわただしいうちに終わってしまった気がします。

今回、初めて研修会の企画、運営にあたった私たちの感想はまず「やってみて初めてわかった主催者の苦労」でした。これまで病図協の研修会に何度も参加してきて、研修会というのは「日頃の業務に役立つ知識・情報が得られ、ためになる」のが当然と思い込んでいたのですが、容易なことではないのだとよくわかりました。反省点を数えればきりがなく、会場の提供者としても至らない点が数多くありましたが、初めてということで大目にみていただけるものと考えることにします。

“何事も経験”という言葉は本当です。自分たちが描いていたシナリオどおり、予想どおりにはいかないものだとも実感しました。ただ、何人かの人にでも来てよかったと思ってもらえたのなら、私たちとしては素直に喜びたいと思います。

最後に、講師を気持ちよく引き受けてくださった木下さん、何かとアドバイスをくださった協議会の幹事の方々に誌上を借り、お礼申し上げます。

（文責・大橋真紀子）